

0740 | ブックバインディング

2 単位（面接授業 2 単位）

田村裕教授、近藤理恵講師

授業の概要と目標

ブックバインディング授業の目的は、手製本の実践を通じて「もの」としての本の構造を知ることと、素材の性質を踏まえながら作業工程を慎重にこなし、製本作品を仕上げる技術の習得である。また導入講義では、製本構造について分析するとともに、本の歴史をたどり、手製本の工房の仕事を紹介する。

現在の本のかたちである冊子は西洋で 4 世紀頃から定着した。以来、製本の技術は、長い時を経て変化改良されつつも、製本工芸として受けつがれてきた。19 世紀末以降、機械製本が主流になっていっても、中身を綴じ表紙をつけるという基本的な製本構造は変わっていない。むしろ現代手製本の世界では、中世や東洋の製本構造に目を向け、応用する試みがなされている。日本の本は明治以降に、それまでの東洋式の製本から西洋式の冊子の形に変え、またそれが機械製本が始まる時代であったために、手製本の技術が広く浸透することがなかった。しかし図書館などで本の保管を考える時には本の構造の知識が役立ち、傷んだ本の手当てには製本の技術が必要である。

出版業界や司書など本に関わる分野で、「もの」としての本の構造を知っておくことは必要だと考えるが、一方、造形分野でも作品を本として仕立てたり、アーティストブックを制作するなど表現手段としての可能性を持っている。またパソコンの普及により、個人で印刷までできるようになり、それをまとめる手段の製本もある。授業では製本の基礎を学ぶが、各自がそれぞれの本との関わりを再考し、本の世界への興味を新たに広げ、製本の可能性を探るきっかけになることを願う。

課題の概要

○面接授業課題 1

文庫本（ソフトカバー）のハードカバー製本への改装。

○面接授業課題 2

和綴じ製本の製作。

○面接授業課題 3

折丁を糸綴じし、丸背ハードカバー製本を製作。保存函の製作。

授業計画

[面接授業]

- 1) 導入講義／本の構造を分析。本の歴史概説（製本工芸作品や現代手製本の紹介を含む）。紙の製法と分類概説。課題 1 文庫本の中身の処理
- 2) 角背ハードカバーの表紙をつくり、中身に合わせる。課題 2 和綴じ製本。
- 3) 課題 3 ①丸背ハードカバー製本の折丁を用意し、糸綴じをする。
- 4) ②背の山出しをし、背堅めをする。
- 5) ③ハードカバーの表紙をつくり中身に合わせる。
- 6) 保存函の製作。タイトル入れなどの仕上げ作業。午後講評。

※注 各課題の工程は、準備段階を含め、平行して行われる場合もある。

※スクーリング前に、参考書に限らず、本に関する図書に目を通しておきましょう。

成績評価の方法

講評による。課題 1 と課題 3 の 2 冊が評価の対象となる。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4 年次

[履修条件] 「造形基礎 I～IV」の単位を修得していること（3 年次編入学生を除く）。

[備 考] スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある（一開講につき 40 名程度）。

教材等

参考書：高宮利行『ゲーテンベルクの謎 活字メディアの誕生とその後』（岩波書店 1998 年）
 庄司浅水『本の五千年史 人間とのかかわりの中で』（東京書籍 1989 年）
 ブリュノ・ブラセル『本の歴史』木村恵一訳（創元社（「知の再発見」双書）1998 年）
 坂井えり『デジタル技術と手製本』（印刷学会出版部 2007 年）
 岩波書店編集部編『本ができるまで』（岩波ジュニア新書 2003 年）